

研究テーマ：文の構造を理解する為の指導の工夫

所属 高知県立宿毛工業高等学校

氏名 柳川 淳子

R G S H 8

【アクション・リサーチⅡ】

(1) 研究の背景

宿毛工業高校は、6科の専門科を持つ工業高校で、全校生徒の約8割は男子生徒である。科によって英語のレベルは多少違うものの、授業中はどのクラスも活発に音読をし、積極的に質問や発表をする生徒が多い。

しかし、3学年を通して英語の授業は週2時間しかなく、単語や構文の定着を図るのが難しい。今回は、私の担当しているクラスの中で一番元気があり、クラスの雰囲気の良い2年建築工学科の生徒21人を対象にリサーチを行うことにした。

(2) リサーチ・クエスチョン

「文の構造を理解させるためにはどう指導すればよいか」

(3) 予備調査

1. 授業観察の結果

2年建築工学科(男子16名、女子5名)は、1学期から発言が良くでき、比較的まとまりのあるクラスである。英語学習に対する意識は高く、ほとんどの生徒が英語を話せるようになりたいと望んでいる。しかし、中学校レベルの文法事項がしっかりと定着しておらず、多くの生徒は英語の語順が理解できない。また、英語が週2時間しかなく、なかなか前に進まないのが現状である。

2. 生徒の英語学習意識

2学期当初にとったアンケート結果では、

英語が好き(6人) 普通(3人) あまり好きではない(9人) 嫌い(3人)

3. 英語力を示すデータ

1学期・・・中間テスト平均点 72.8点、期末テスト 72.6点

2学期・・・中間テスト 72点、期末テスト 62.5点

(4) 仮説の設定

(ア) 仮説

1. 文の並びがわからないのは、文章を読むことが少ないからではないか。

2. 単語が覚えられないのは、自宅学習の習慣がないからではないか。

(イ) 実践の方法

1. Lesson の文章を暗記するほど読ませる。

CDについて読む、時間を競って読む、シャドーリーディングをするなど生徒が飽きないように読む手段を変える。

2. 答えとなる単語を黒板に書き、それを見ながらテストを行ってみる。

テストの回数を増やせば、書く回数も増えるので、暗記が苦手な生徒でも取り組み易いはずだ。

(5) 計画の実践

実践1) Lesson 3に10時間を使った。3時間目の授業以後は、本文を読んだり、聞いたりを繰り返した後次のようなテストを行った。

例) 文章の横にある単語が正しく入る場所に ^ のしるしを書きなさい。(計 11 問)

"Tea and Scones." They are what British people often for afternoon tea. (have)
But these words not originally English words. (were)

実践 2) 単語テストを毎時間行った。まず、黒板に新出単語を書き、発音練習をする。

例 1) 黒板→ gun 銃 bow 弓 problem 問題 racial 人種 anymore もうこれ以上～ない

発音ができ始めたら、教師が日本語を言い、生徒が英語を発音する。次に、黒板の日本語を消し、同じことを繰り返す。生徒の声が大きくなって、単語を覚えた頃にテストをする。黒板は英単語のみが残った状態である。生徒は黒板を見て単語を書いて良い。ただし、アルファベット 1 語ずつ見ながら

例 2) 単語テスト

1 イギリスの警察官は銃を持ち歩きません。

The British police do not carry ()s.

2 一番の問題は、お金がないことだ。

My main () is lack of money.

ら写すのではなく、顔を上げ単語を覚えてから一気に書くよう指導する。(単語を覚えることが目的なので、複数形になる場合は、変則であるがカッコの外に-s ,-es を書いておいた。)

(6) 実践の結果

実践 1 の結果)

1 時間の授業で合計 5 回は本文を聞いたり、読んだりしたので、30 回以上は本文に触れており、暗記する生徒も出てきた。上記のテストは計 3 回行い、平均点は以下ようになった。(11 点満点)

1 回目	5.6	2 回目	8.4	3 回目	7.7
------	-----	------	-----	------	-----

(3 回目の平均点が下がっているのは、1、2 回目を欠席していた生徒がテストを受けたためである。)

実践 2 の結果)

期末テストまでこの作業を 4 回行った。テスト前に必ず声に出して読んでいる自信と、答えが前にある安心感から、全員真剣に取り組んだ。(1・2 回は 11 点、3・4 回は 10 点満点)

1 回目	10.1	2 回目	8.8	3 回目	9.9	4 回目	9.6
------	------	------	-----	------	-----	------	-----

(2 回目の点数が落ちているのは、日本語訳のない英文を与えたからである。)

様々な場面で使えるようにとこちらが考えて英文を作っていても、日本語訳を見て理解している生徒が多く、このような結果になった。

(7) 結果の検証

繰り返し作業をすることで記憶の定着が図れ、文章の並びが少なからずは頭に入ったようだ。また、目に見えて自分の成績が伸びていくことがわかり、勉強する姿勢を作れたと考える。

(8) 成果と課題

成果：本文を何度も読ませた結果、英語の語順やリズムはつかんだようである。また、生徒自身が単語テストを楽しみながらした結果、単語を覚えやすかったとの意見が多かった。

実践 1 のテスト結果を見ると、繰り返し英語に触れることで文の構造は理解しつつあると考えられる。また、中間テスト後のアンケートでも「何度も読んだから文がわかってきた」という声が聞かれた。

課題：単語テストは、日本語を読んで単語を推測しているので、日本語訳がなければ初めから諦める生徒が多い。また、本文を読ませる、単語を覚えるということは、input のみの作業なので、output が足りなかったと反省している。

生徒自ら考えたことを、英語で表現できる授業を積極的に作り取り組めば、今以上に文の構造の理解が深まり、単語も身に付くと考えられる。